

平成29年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実施報告書

HT29281 表現活動で「思いやり」のかたちを体感してみよう



開催日：2017年11月3日(金)

実施機関：山口大学

(実施場所) (教育学部B棟43番教室)

実施代表者：松岡敬興

(所属・職名) (大学院教育学研究科・准教授)

受講生：小学5・6年生3名, 中学生11名

関連URL:

【実施内容】

日本学術振興会「ひらめき☆ときめきサイエンス」のプログラムとして、『表現活動で「思いやり」のかたちを体感してみよう』を実施した。児童、生徒、保護者、学校関係者を含めて17名の参加があった。

前半のアイスブレイク『今の心の色は?』では、40色の色紙の中から最もピッタリの色を選び出し、その理由について発表し合い情報共有した。またネームプレートづくりでは、参加者一人一人が個性を踏まえつつ、印象的なデザインを作成し、その後の活動においても活用した。

ところで「思いやり」の心を行動化することはかなり難しい。頭では理解できているのに、行動化できなかった経験に着目する。そこで真に「思いやり」のかたちを実感できる手だての一つとして、「描画活動」を組み入れた活動Ⅰ『友達の顔を描いてみよう』に取り組んだ。

これは二人一組になり相手の顔を描きながら、お互いのよさについてもフリートークで語り合う。次に出来上がった作品を提示しながら、仲間に向けて新たな気づきを発表し共有することで、互いに心理的な距離を縮めることができた。仲間のことをより深く理解することで、相手への思いやり・慮る行動がもたらされ、その心地よさを仲間と共に体感できた。

また今回より活動Ⅲ『仲間と協働しながら一つの絵画を完成させよう』を新たに加え実践した。ここでは4人1組となり、テーマを秋と設定し、会話をしないで自由に描く。8分毎に時計回りに座席を移動し、他者の描写に続き制作活動を進め作品を完成させる。制作物について、4人で振り返りを行い、それぞれの思いを交換することで相互理解のかたちを共感することができた。

●留意、工夫した点

活動Ⅰ『友達の顔を描いてみよう』では、制作上の留意点について、実施協力者(蜂谷昌之准教授/広島大学教育学研究科造形芸術教育学専修)より説明を加えた。また実施協力者(大学院教育学研究科教職実践高度化専攻)も活動に参画し、参加者がリラックスして取り組める雰囲気づくりに努めた。同時にファシリテーターも、机間巡視をしながらポジティブな声かけを行い、意欲的な活動を促した。

また活動Ⅲ『仲間と協働しながら一つの絵画を完成させよう』についても、同様に支援を行った。4人1組を編成するために、実施協力者がグループに入り制作活動に取り組んだ。活動Ⅰではコミュニケーションを大いに図りながらの展開に対し、活動Ⅲではコミュニケーションをとらずに静かに制作活動に取り組むことで、動と静の両面から相互理解のかたちを実感できるようにした。振り返りの時間を通して、自らの思いと他者の思いとの共通点・相違点への気づきを深めることを大切にした。

●当日のスケジュール

- 12:30 受付開始
- 13:00 開講式、挨拶、科研費の説明、日程説明・諸連絡
- 13:20 アイスブレイク『今の心の色は?』
- 13:40 「ネームプレート」づくり
- 13:50 活動Ⅰ『友達顔を描いてみよう』
- 14:20 集合写真撮影
- 14:25 クッキータイム&フリートーク
- 14:40 活動Ⅱ『友達への気づきを深めよう』
- 15:00 活動Ⅲ『仲間と協働しながら一つの絵画を完成させよう』
- 15:45 クッキータイム&フリートーク
- 16:00 活動Ⅳ『友達への気づきを深めよう』
- 16:15 シェアリング
- 16:30 修了式(未来博士号授与)
- 16:35 講評、アンケート記入
- 17:00 閉講式



(参加者全員で記念撮影、教育学部B棟43番教室)

●実施の様子



(アイスブレイク『今の心の色は?』のようす)



(活動Ⅰ『友達顔を描いてみよう』のようす)



(活動Ⅱ『友達への気づきを深めよう』のようす)



(活動Ⅲ『仲間と協働しながら一つの絵画を完成させよう』のようす)



(活動Ⅳ『友達への気づきを深めよう』のようす)



(修了式[未来博士号授与]のようす)

●事務局との協力体制

契約及び経費管理に関わる事務手続きは、研究推進課研究助成係が担当した。また委託金の執行に関わる手続きについては、教育学部予算管理係が担当した。本プログラムの実施にあたり、両担当係と連携しながら進めることができた。

●広報活動

プログラムの開催案内のポスターおよび募集案内を作成し、近隣の学校を訪問し説明のうえ、参加の呼びかけへの協力を依頼した。また大学院教育学研究科教職実践高度化専攻[教職大学院]の院生からも、同様の協力を得た。

●安全配慮

実施会場の安全確保のため、事前に使用する机・椅子等の確認を行った。また休日開催であることから、誘導についても万全を期し、正門から会場まで担当者をつけた。会場内での室温等にも配慮しながら、休憩時には換気も行い環境整備に努めた。

●今後の発展性、課題

望ましい人間関係を築くうえでは、自己理解・他者理解を深め相互理解を高めることが手掛かりとなる。本プログラムは、児童生徒が主体的に取り組めることから、汎用性が高く教育効果も期待できる。このことはアンケート結果やその自由記述からも読み取れた。今後も、新入生のオリエンテーションや学級経営(人間関係づくり)のために有効な手だての一つとして、学校現場において活用の範囲を広げていきたい。科学研究費補助金を通して取り組んだ成果を生かすとともに、今回新たに加えた活動Ⅲ『仲間と協働しながら一つの絵画を完成させよう』については、今後も小・中学校において実践を重ね、その成果を整理し汎用性を高めたい。

【実施分担者】 前田昌平(大学院教育学研究科教職実践高度化専攻教授)

【実施協力者】 8名 蜂谷昌之(広島大学教育学研究科准教授、研究分担者)、三時和久(大学院教育学研究科教職実践高度化専攻[教職大学院]院生)、室内文彦(同)、天津悠介(同)、河合哲郎(同)、鉄村晋也(同)、宮崎雅史(同)、大塚祐亮(同)

【事務担当者】 沖中玲子(学術研究部研究推進課研究助成係、係長)